## 使役表現

### 辞書形から使役形の作り方

Ⅰグループ：語末の母音を[u]から[a]に変えて、「せる」をつけます。
例）書く→**書か**せる、遊ぶ←**遊ば**せる、帰る→**帰ら**せる、習う→**習わ**せる

Ⅱグループ：「る」を取って、「させる」をつけます。
例）いる→いさせる、食べる→食べさせる、考える→考えさせる

Ⅲグループ：する→**さ**せる、来る→**来さ**せる

★自動詞と他動詞では文の形が異なります。

人や物 **を／に【**自動詞**】**（さ）せる。／　人や物 **に ～を【**他動詞**】**（さ）せる。

★使役形を使った様々な表現があります。

（1）**強制**：受け手の意志に関係なく、命令したときの表現

Ⅰグループは「さ入り言葉」にならないよう注意

例）（アルバイト先で急に体調が悪くなったため）
店長が店員**を／に帰らせ**ました。✖**帰ら~~さ~~せ**ました

☛　自動詞の場合は「**に**」を使うと、店長　が“店員の希望も聞いて”帰らせた、という意味になります。

例）（子供はニンジンが苦手ですが、健康のため）
親が子供**に**ニンジン**を食べさせ**ます。

（2）**許可**：受け手が希望していることを許すときの表現

「～（さ）せてください」は相手に許可を求める表現

例）（大学院に進むかどうか、すぐには決められません。）
「もうし少し**考えさせ**<u>てください</u>。」

☛　丁寧にお願いするときは、「～（さ）せてもらえませんか」「～（さ）せていただけませんか」などと言います。

例）（子供の頃、「ギターが弾けるようになりたい」と話したら）
父は私**にギターを習わせ**<u>てくれました</u>。
私は父**にギターを習わせ**<u>てもらいました</u>。

☛「～（さ）せてくれる／もらう」で“感謝の気持ち”を表します。

（３）**誘発（感情の原因）**：主体の“ある行い”によって、受け手に感情的な変化が起こる場合の表現

例）彼（＝主体）はおもしろいことを言って、いつもクラスのみんな**を笑わせ**ます。

☛ “ほほ笑む、喜ぶ、驚く、泣く、怒る”などの自動詞から作られます。

（４）**他動詞化**：自動詞の使役形を他動詞として用いる表現

例）この植物は寒さに強く、冬でも美しい花**を咲かせ**てくれます。

☛ 対となる他動詞がない場合に、使役形を使うことがあります。

## ♪君は４分の１♪

おばあさんと幼い孫との“楽しいやり取り”を歌にしてみました。歌詞から（１）の強制以外の使役表現と数え方（分数や「～段」）を学ぶことができます。

### 祖母の“願い”や“ありがとうの気持ち”を使役形で表現

（２）
（君が君自身を）輝かせてください。
（私に君を）見守らせてください。
（私を君の傍に）いさせてください。

孫　祖母

（３）
いつも笑わせてくれて
ほほ笑ませてくれて
心（を）通わせてくれて
喜ばせてくれて
ありがとう！

（４）
（覚えたての言葉を）口をとがらせて…、（ありったけの力で）息をはずませて…

### 「～段」は「～枚」と同じ数え方

★Song Video ♪１枚足りない♪の「～枚」と同じリズムとアクセントで数えましょう。
数詞は【基本形】（４・７・９）を使います。

１段　２段　３段　４段　５段　６段　７段　８段　９段　10段
【b】

☛ アクセントは合成語の【c】型（２）です（例外：５段）。数詞のすぐ後で低くなりますが（例：いち＼だん、に＼だん）、撥音を含む３・４、長音を含む９・10では“下がり目”が１モーラ早くなります（例：さ＼ん・だん、きゅ＼う・だん）。